Site

ジンバブエ (Zimbabwe)

- アフリカ大陸南部に位置する。 国名は「石の家」を意味する。
- ソウル → アディスアベバ → ハラレ を経由して到着
- 日本のパスポートの場合、 アライバルビザで入国可能
- 英語が公用語の一つ
- 通貨は2009年以降現行の ジンバブエドルとUSDが使用可能





Schedule

ハラレ : 8/26 - 8/29,

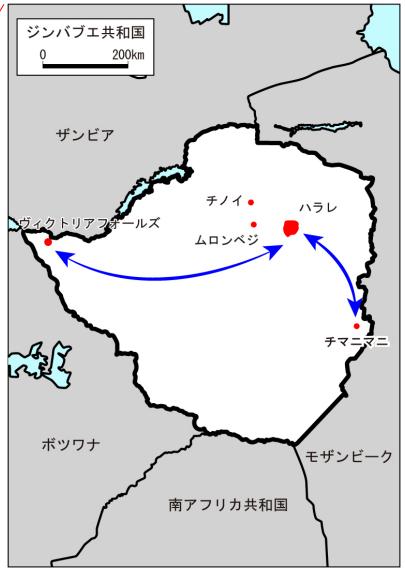
: 9/1 - 9/10

ムロンベジ : 8/27

チマニマニ : 8/29 - 8/31

チノイ : 9/1

ヴィクトリアフォールズ :9/5 - 9/7



ジンバブエの周辺環境に適応したオフグリッド建築に関する調査研究

自然環境

ヴィクトリアフォールズ: Victoria Falls



ジンパブエの魅力の一つに日本とは規模の全く異なる大自然が ある。世界三大瀑布の一つである巨大なこの滝は乾季にも関わ らず迫力が凄まじく、流れるザンベジ川は隣国のザンビアとの 国境になっている。海外からの観光客が多く見られた。











自然環境

チノイ:Chinhoyi・ドンボシャワ:Domboshawa etc.



国名や通貨にも見られるように石が有名な国であり、Domboshawaには岩山の上に大きな岩がバランスしている。また、Chinhoyiには深い青色の池がある 鍾乳洞がある。そのほかにも、人間より大きなシロアリの土塚が道路脇の至る所に見られるなど、日本とは全く異なる自然環境にとても衝撃を受けた。







各地域による人々の生活

ハラレ(首都): Harare





公共交通機関が未発展のため自動車が主な移動手段であり、中心地は高層の建物が集中して 人が多くにぎわっていた。大統領選挙(8/23)などの影響もあり、人込みでの混乱を避けて徒 歩ではなく車のみで移動した。渋滞が起こりやすく、道路上で物品を販売している人が多い。 中心地から少し離れるとマーケットや低層のショッピングモールも多く見られた。









各地域による人々の生活

チマニマニ: Chimanimani



2019年のサイクロン・イダイによって大規模な土砂崩れが起きて、 甚大な被害を受けたモザンビークとの国境近くに位置する村。現在 も**復興は全く不十分**であり、崩れたままの家屋が散見された。 山肌から流れ落ちてきた巨大な岩が村中の至る所に転がっていた。



ジンバブエの周辺環境に適応したオフグリッド建築に関する調査研究







各地域による人々の生活

ムロンベジ: Murombedzi



都市郊外の農村の生活の様子。電気は持ち運べるサイズの太陽光 パネルを使用し、水は村に唯一の井戸で汲み上げる。各住宅は部 屋の機能ごとにレンガ壁と茅葺屋根のハットと呼ばれる建物が複 数集まっている。棚や椅子・竃はすべて土を固めて造形している。









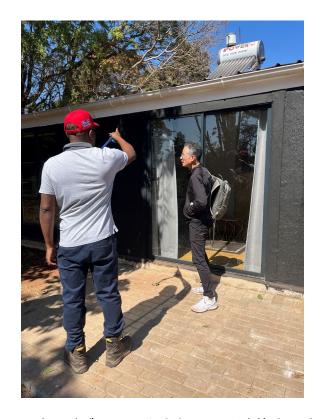


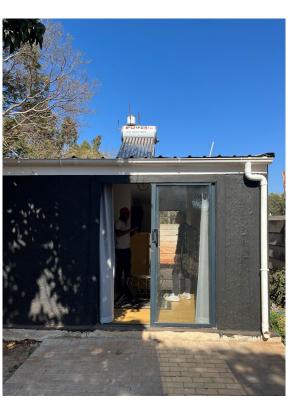


Site

建築・人々の取り組み

エコパネルハウス





ジンバブエで活動されている建築家の方からは、廃棄されている断熱材用の フォームをコンクリートで固めて壁用のパネルとして使用している事例を紹 介いただいた。被災地での状況から、安価かつ短期間で竣工可能で、恒久的 な住宅として活用することを目指しているとのことであった。







建築・人々の取り組み

都市への問題提起シンポジウム



アフリカ南部を中心に活動されているディベロッパーの方と我々 の研究室の指導教員との対談及びシンポジウムが企画された。 聴衆には建築分野に関わるジンバブエの方々や、学生も多く参加 し、ジンバブエ全体の現状の都市の課題に関する討論が行われた。



ジンバブエの周辺環境に適応したオフグリッド建築に関する調査研究



その他の様々な魅力・特徴の紹介

食べ物・通貨・彫刻



最後に珍しい食べ物の紹介として、伝統料理にサザと呼ばれるものがある。また、バオバブの種やバッファローのステーキなどもあった。他にも、昔の紙幣がインフレの影響で使えず、石の彫刻はお土産としてとても有名であると知った。













まとめ

アフリカは日本人にとってあまり馴染みのない国が多いと感じていたが、ジンバブエは大自然溢れるとても 魅力的な国であることを知ることができた。また、政 治的な影響や災害に対する課題への国民の強い当事者 意識は見習わなければならないと感じた。

建築物についても、伝統的な茅葺屋根のような自然環境に適用しつつ活用したオフブリッド建築が多く残っていた。特に、ジンバブエ出身の建築家であるMick Pearceの設計したChinhoyi Provincial Hospitalは、伝統的な様式を残しつつ、自然環境を基に建築設計に落とし込んだ例であると感じた。

ジンバブエ・ハラレの国際空港は、現在新しく改修・ 拡張されたばかりであり、都市全体もこれからさらに 発展する可能性を十分に秘めていると感じた。















